

2006年3月期第1四半期 決算説明会資料

2005年8月8日



スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社
www.sparx.co.jp

決算説明会資料に関して

この資料は、投資家への情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の有価証券の取引を推奨する目的、または特定の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。

数値、情報については、正確性を期すべく、万全の配慮をしておりますが、一部内部資料に基づくものもあり、財務データに関しては未監査のものでありますので、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性等を保証するものでなく、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら補償するものではありません。

また、ここに記載された内容が事前連絡なしに変更されることもあります。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。



2006年3月期第1四半期の業績について



2006年3月期第1四半期決算のポイント

- ▶ 平均運用資産残高、残高報酬は共に四半期ベースで過去最高を更新した
- ▶ 株式市場では大型株のボラティリティが低く、成功報酬の実現は約2億円
- ▶ R & I社より「A - 」の格付けを取得。資金調達の多様性が拡大し、今後の成長に弾みがついた
- ▶ SPARX International (Hong Kong) Limited、スパークス・キャピタル・パートナーズ(株)の設立により、アジア株投資、自己資金投資進出の地歩を固めた
- ▶ 韓国子会社の運用資産残高(783億円:6月末現在)が前期末比+39.1%の大幅増、運用成績も良好



第1四半期 連結決算ハイライト

本資料における数値は全て連結ベースの数値を使用している。

	2005年3月期		2006年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
運用資産残高(AUM)平残 (億円)	7,122	7,556	8,946	+23.2%
営業収益 (百万円)	2,980	14,277	2,689	-9.8%
営業費用・一般管理費 (百万円)	1,337	6,487	1,798	+34.5%
営業利益 (百万円)	1,643	7,790	890	-45.8%
経常利益 (百万円)	1,645	7,670	810	-50.7%
当期利益 (百万円)	892	4,264	344	-61.4%
役職員数 (期末) (人)	115	129	159	+38.3%
TOPIX (期末)	1,189	1,182	1,177	-1.0%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記「役職員数(期末)」には、非常勤役員を含む。

運用資産残高(AUM)属性と海外投資家比率

	2004年 6月末	2004年 9月末	2004年 12月末	2005年 3月末	2005年 6月末	
					6月末	構成比
投資信託委託業 (単位: 億円)						
国内公募投信	673	685	727	839	851	9.1%
国内私募投信	1,292	1,327	1,338	1,398	1,468	15.8%
投資顧問業 (単位: 億円)						
個別口座(国内顧客)	604	576	621	890	984	10.6%
個別口座(海外顧客)	3,024	2,734	2,870	3,132	3,346	35.9%
スパークス設定海外籍ファンド	1,957	1,970	2,121	2,195	2,575	27.6%
投資助言契約	6	6	5	86	89	1.0%
合計	7,560	7,301	7,684	8,542	9,314	100.0%
海外投資家比率 (単位: %)	58%	57%	56%	56%	56%	



(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。なお、2005年6月末の構成比に関しては、小数点以下第2位を四捨五入し表示している。

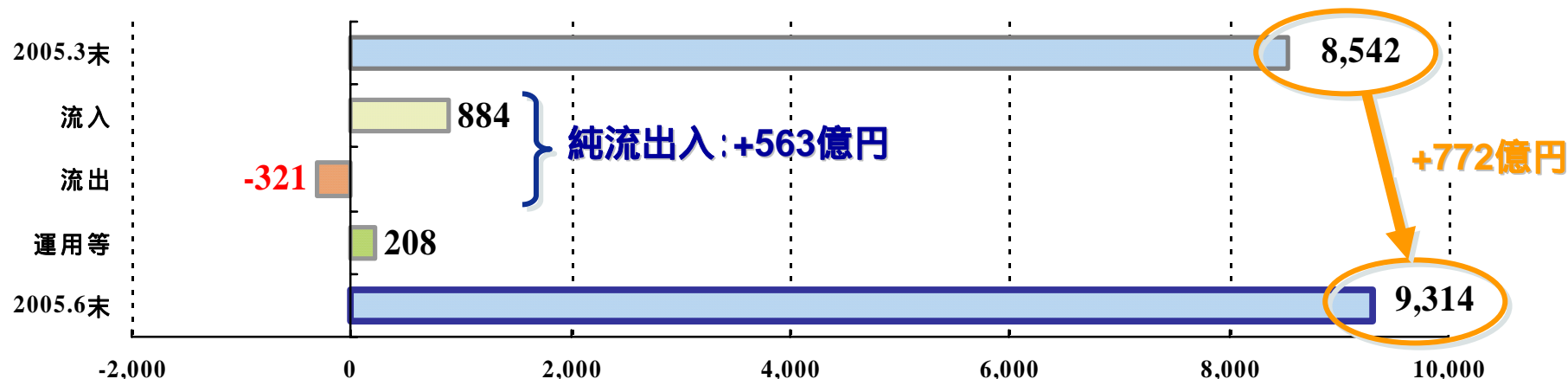
(注2) 「スパークス設定海外籍ファンド」とは、当社の海外子会社により運営されているファンドを指す。

(注3) 上記「海外投資家比率」は小数点以下第1位を四捨五入し、単位を%で表示している。また、上記の数値は社内の概算値を表示しており、正確性を保証するものではない。

(注4) 上記表中において、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の運用資産残高は、当社持分が100%でないため含まれていない。

資金流入 【2005年3月末～2005年6月末】

(単位:億円)



ストラテジー別	2005年3月末	流入	流出	運用等	2005年6月末
日本株式ロング・ショート投資戦略	2,739	91	-159	54	2,725
日本株式集中投資戦略	395	96	-1	12	503
ファンド・オブ・ファンズ投資戦略	267	0	-1	3	270
日本株式一般投資戦略	2,876	231	-72	64	3,099
日本株式中小型投資戦略	1,517	112	-86	57	1,600
バリュー・クリエーション投資戦略	704	351	-	16	1,072
未公開株投資戦略	43	-	-	-0	43
合計	8,542	884	-321	208	9,314

(注1) 上記表中の数字は、単位未満を切り捨てて表示している。

(注2) 上記表中において、韓国子会社(Cosmo Investment Management Co., Ltd.)の運用資産残高は当社持分が100%でないため含まれていない。(参考:2005年6月末の運用資産残高は783億円、対3月末比118億円純増)

営業収益 内訳

	2005年3月期		2006年3月期	
	第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
残高報酬 (百万円)	1,782	7,962	2,355	+32.2%
料率(手数料控除後) (%)	0.85	0.88	0.87	+0.02
支払手数料控除後 (百万円)	1,516	6,626	1,908	+25.8%
成功報酬 (百万円)	1,122	6,011	229	-79.6%
対AUM付帯比率 (%)	55.8	55.0	55.5	-0.3%
その他営業収益 (百万円)	76	303	104	+37.0%
営業収益 合計 (百万円)	2,980	14,277	2,689	-9.8%



(注1) 上記表中の数字は「前年同期比」「残高報酬・料率(手数料控除後)」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」については、小数点以下第3位を四捨五入して表示している「残高報酬・料率(手数料控除後)」を除き、小数点以下第2位を四捨五入して表示している。なお「残高報酬・料率(手数料控除後) (%)」と「成功報酬・対AUM付帯比率 (%)」の「前年同期比」は変化率ではなく、単純な増減幅を表示している。

(注2) 上記「残高報酬・支払手数料控除後」は少数株主持株分利益の調整を行っている。

(注3) 上記表中の「残高報酬・料率(手数料控除後)」において、Cosmo Investment Management Co., Ltd.は当社持分が100%でないため含まれていない。

基礎収益力

残高報酬(手数料控除後)のみで確保できる経常的な利益は、どのくらいか？

		2005年3月期	2006年3月期
		通期	第1四半期(12ヶ月換算)
AUM平残	(億円)	7,556	8,946
残高報酬料率 (手数料控除後)	(%)	0.88	0.87
残高報酬 (手数料控除後)	(百万円)	6,649	7,783
経常的経費	(百万円)	3,508	3,943
基礎収益	(百万円)	3,141	3,840
役職員数(常勤)	(人)	127	156

(注1) 上記表中数字は単位未満を切り捨て表示している。「残高報酬」は概算値として、残高報酬料率からの年換算値を表示している。

(注2) 「経常的経費」とは 支払手数料全額、実績賞与、その他特殊要因により生じた費用等の合計を営業費用・一般管理費の合計から控除した費用の合計を指し、2006年3月期第1四半期の「経常的経費」については、当該四半期の経常的経費を基に、12ヶ月換算した数字を用いている。

(注3) 「役職員数」非常勤役職員を含まない。

(注4) 上記表中の「残高報酬・料率(手数料控除後)」において、Cosmo Investment Management Co., Ltd.は当社持分が100%でないため含まれていない。



成功報酬 内訳

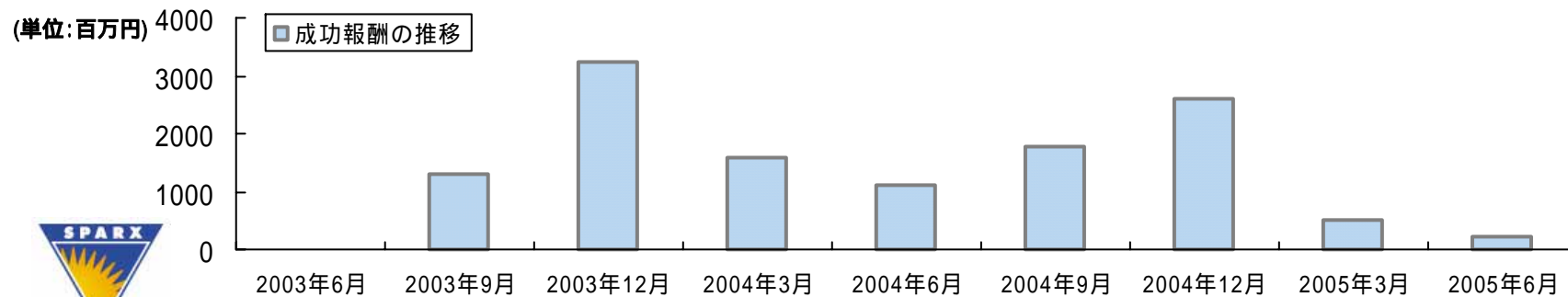
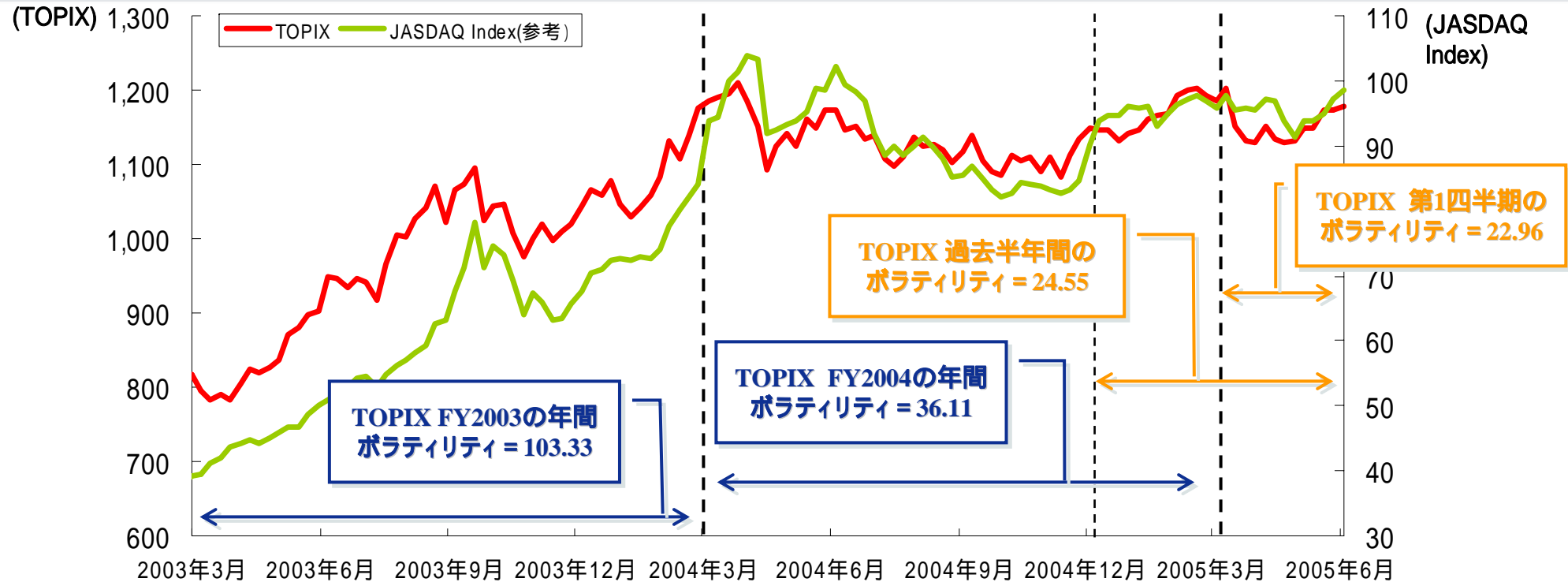
		2005年3月期		2006年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
AUM平残	(億円)	7,122	7,556	8,946	+23.2%
日本株式ロング・ショート	(百万円)	1,046	4,484	89	-91.5%
日本株式集中	(百万円)	0	931	39	+4972.1%
ファンド・オブ・ファンズ	(百万円)	1	44	-	-
日本株式一般	(百万円)	66	220	0	-99.3%
日本株式中小型	(百万円)	7	32	3	-61.1%
バリュー・クリエーション	(百万円)	-	297	84	-
その他	(百万円)	-	-	12	-
成功報酬 合計	(百万円)	1,122	6,011	229	-79.6%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

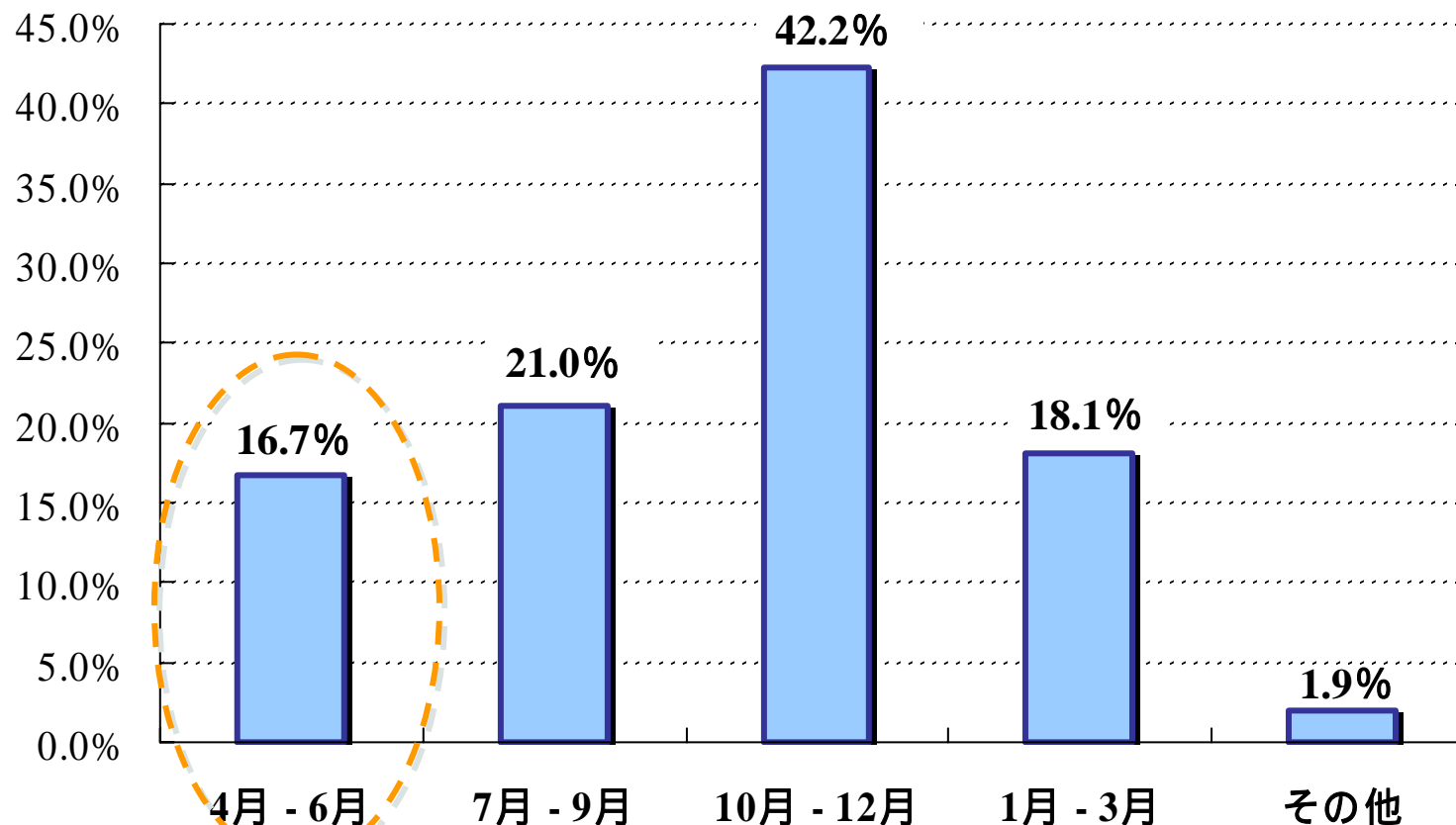
(注2) 上記表中「その他」には、Cosmo Investment Management Co., Ltd.にて計上された成功報酬が含まれている。

当第1四半期の運用環境; 大型株ボラティリティの縮小



成功報酬の計算基準日の分布状況

運用資産残高(2005年6月末)に占める割合

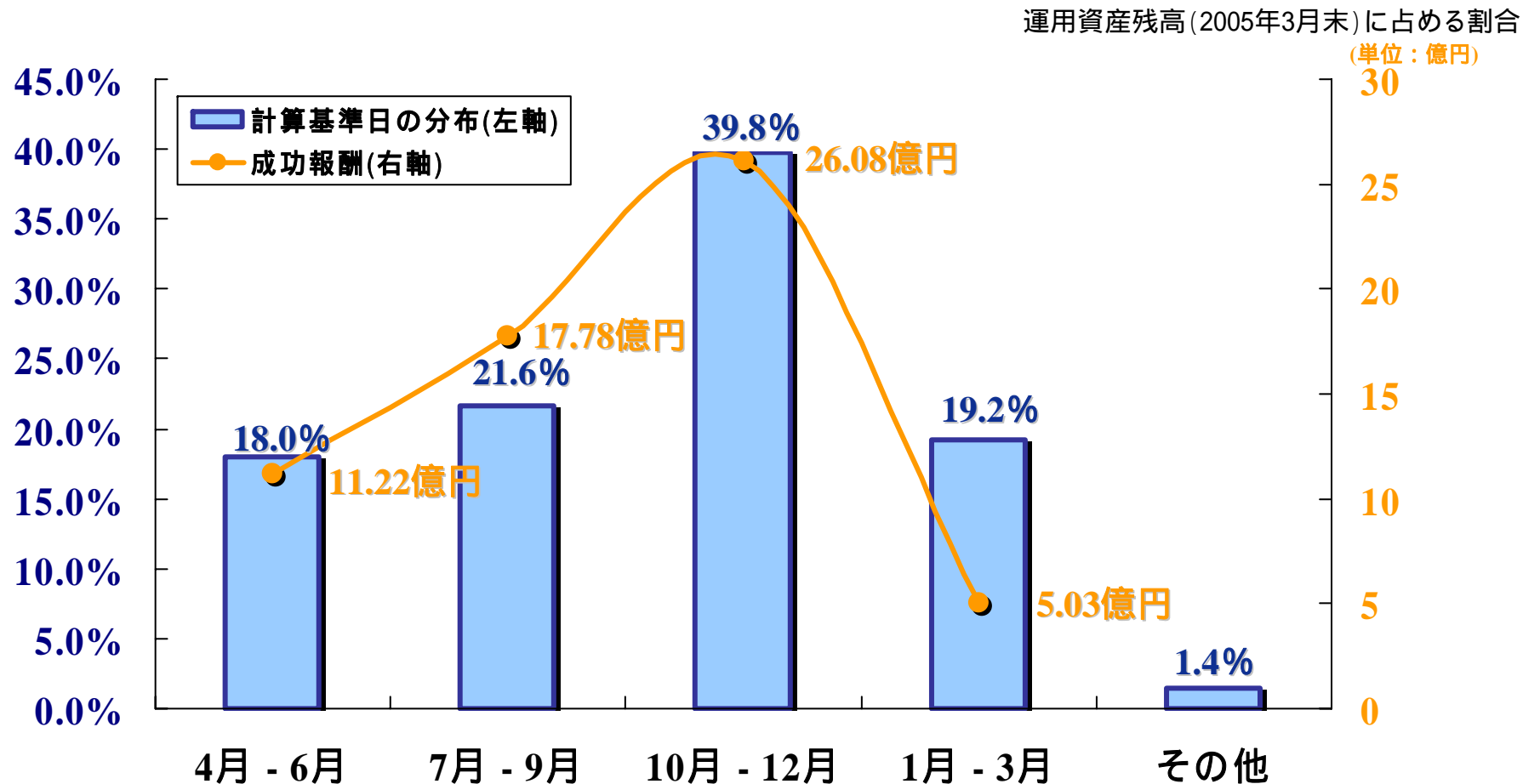


(注1) 上記表中の「運用資産残高(2005年6月末)に占める割合」では、当社が運用する全てのファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その上で、当社の2004年12月末の運用資産残高に占める割合をグラフ化した。その際、複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高全てを各月に計上、各月に重複して計上している分は、運用資産残高合計にも加算、成功報酬がつかないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。尚、上記の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入し、表示している。

(注2) 上記の数字は、社内データ及び当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。



成功報酬計算基準日の分布と成功報酬額実績(2005年3月期)



(注1) 上記表中の「運用資産残高(2005年3月末)に占める割合」では、当社が運用する全てのファンド(「ファンド」とは、投資信託あるいは投資一任口座を指す。以下同様)を、成功報酬の基準日および支払いが確定する月ごとに分類し、その上で、当社の2004年12月末の運用資産残高に占める割合をグラフ化した。その際、複数の支払時期があるファンドについては、該当ファンドの残高全てを各月に計上、各月に重複して計上している分は、運用資産残高合計にも加算、成功報酬がっていないファンドは、運用資産残高の合計から除外、という調整を行い、上記割合を算出している。尚、上記の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入し、表示している。

(注2) 上記の数字は、社内データ及び当社資料による概算値であり、正確性を保証するものではない。



経費 内訳

(単位は全て百万円)	分類	2005年3月期		2006年3月期	
		第1四半期	通期	第1四半期	前年同期比
支払手数料	営業費用	231	1,599	392	+69.0%
委託計算費	営業費用	22	172	42	+91.2%
その他	営業費用	71	295	71	-0.5%
人件費	一般管理費	542	2,453	649	+19.7%
うち 賞与引当金		200	-	250	+25.0%
旅費交通費	一般管理費	79	288	73	-7.7%
不動産賃借料	一般管理費	88	371	108	+22.5%
事務委託費	一般管理費	136	374	115	-15.6%
減価償却費	一般管理費	36	166	57	+56.7%
その他	一般管理費	125	766	287	+128.1%
営業費用・一般管理費 合計		1,337	6,487	1,798	+34.5%



(注1) 上記表中の数字は、「前年同期比」を除き、単位未満を切り捨てて表示している。「前年同期比」は、小数点以下第2位を四捨五入して表示をしている。

(注2) 上記表中の「人件費」には、派遣社員等への費用も含んでいる。

グループ人員配置(常勤) 内訳

(注)括弧内の人数は、対2005年3月末比の増減人員数を示している。

	社長・常務・取締役	運用調査	営業	コーポレート	ファンド管理	IT	リーガル&コンプライアンス	リスク・パフォーマンス管理	合計
スパークス・アセット・マネジメント投信	4 (-1)	42 (+9)	16	12	8	7 (-1)	5 (+1)	4 (+3)	98 (+11)
スパークス証券	0	0	11 (+2)	3	0	0	0	0	14 (+2)
米国子会社	0	0 (-1)	7	4	3	2	3	0	19 (-1)
英国子会社	0	0	4	2 (+1)	1 (-1)	0	1	0	8
韓国子会社 (Cosmo Investment Management Co., Ltd.)	1	8	2	3	3	0	0	0	17
部門別合計	5 (-1)	50 (+8)	40 (+2)	24 (+1)	15 (-1)	9 (-1)	9 (+1)	4 (+3)	156 (+12)

うち、ファンドマネージャー9名、アナリスト20名、トレーダー3名、アシスタント10名

主要投資戦略 計測開始日来自リターン

(年率換算)

(コンポジット計測開始日～2005年6月末)

	日本株式 一般(合同口)	日本株式 店頭	ロング・ショート (ドル建、 Lev.2)	ロング・ショート (円建、Lev.1)	集中投資	VCI (ドル建)
コンポジット	14.8%	14.5%	19.9%	6.3%	9.1%	46.1%
参考インデックス値	-1.5%	7.9%	1.3%	-4.0%	-2.1%	19.7%
超過リターン	16.3%	6.6%	18.6%	10.3%	11.2%	26.4%

参考インデックス	TOPIX配当込	日経JASDAQ 平均	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)	TOPIX配当込	TOPIX配当込	TOPIX配当込 (ドルヘッジ)
計測開始日	97年5月	97年4月	97年8月	2000年6月	99年7月	2003年2月
コンポジット・リターン のボラティリティ(年率)	24.8%	26.1%	12.3%	6.2%	24.0%	18.4%

(注1) 上記表中の数字は、当社で運用する主要な投資戦略のコンポジット・リターンを社内資料に基づいて作成した。表中の「参考インデックス」とは、相対比較のために便宜的に採用した指標であり、顧客から要請されているベンチマークとは限らない。

(注2) リターン算出基準は次の通り。「日本株式一般」「日本株式店頭」「ロング・ショート(ドル建、Lev.2)」「集中投資」については、修正ディーツ法・運用関連手数料控除前、「ロング・ショート(円建、Lev.1)」は基準価格法・運用手数料控除後、「VCI(ドル建)」は内部収益率・運用手数料控除前。また、上記数字は小数点以下第2位は四捨五入して表示している。

(注3) 「TOPIX配当込(ドルヘッジ)」は1ヶ月為替フォワード・レートで完全にヘッジされた場合のドル建のリターンを計算している。



コンポジット算出に関する追記

- 各コンポジットはスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社とその100%子会社であるSPARX Overseas, Ltd. 及びSPARX Investment & Research, USA, Inc.が運用するポートフォリオを対象としている。
- 今回提示した各コンポジットの投資戦略の内容は以下の通りである。

コンポジットの名称	投資戦略の内容
日本株式一般(合同口)	合同運用を行う、日本の全上場・公開銘柄を投資対象とするアクティブ投資戦略
日本株式店頭	日本の店頭、中・小型株を主要投資対象とする投資戦略
ロング・ショート (ドル建、Lev2)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の2倍の範囲内として安定した絶対リターンを目標とするロング・ショート投資戦略
ロング・ショート (円建、Lev1)	日本株に対するロング・ポジションとショートポジションの合計を純資産の1倍の範囲内として安定した絶対リターンを目的とするロング・ショート投資戦略
集中投資	少数銘柄の日本株式に集中的に投資する投資戦略
VCI(ドル建)	コーポレート・ガバナンスの見地から日本株式に能動的に投資する投資戦略

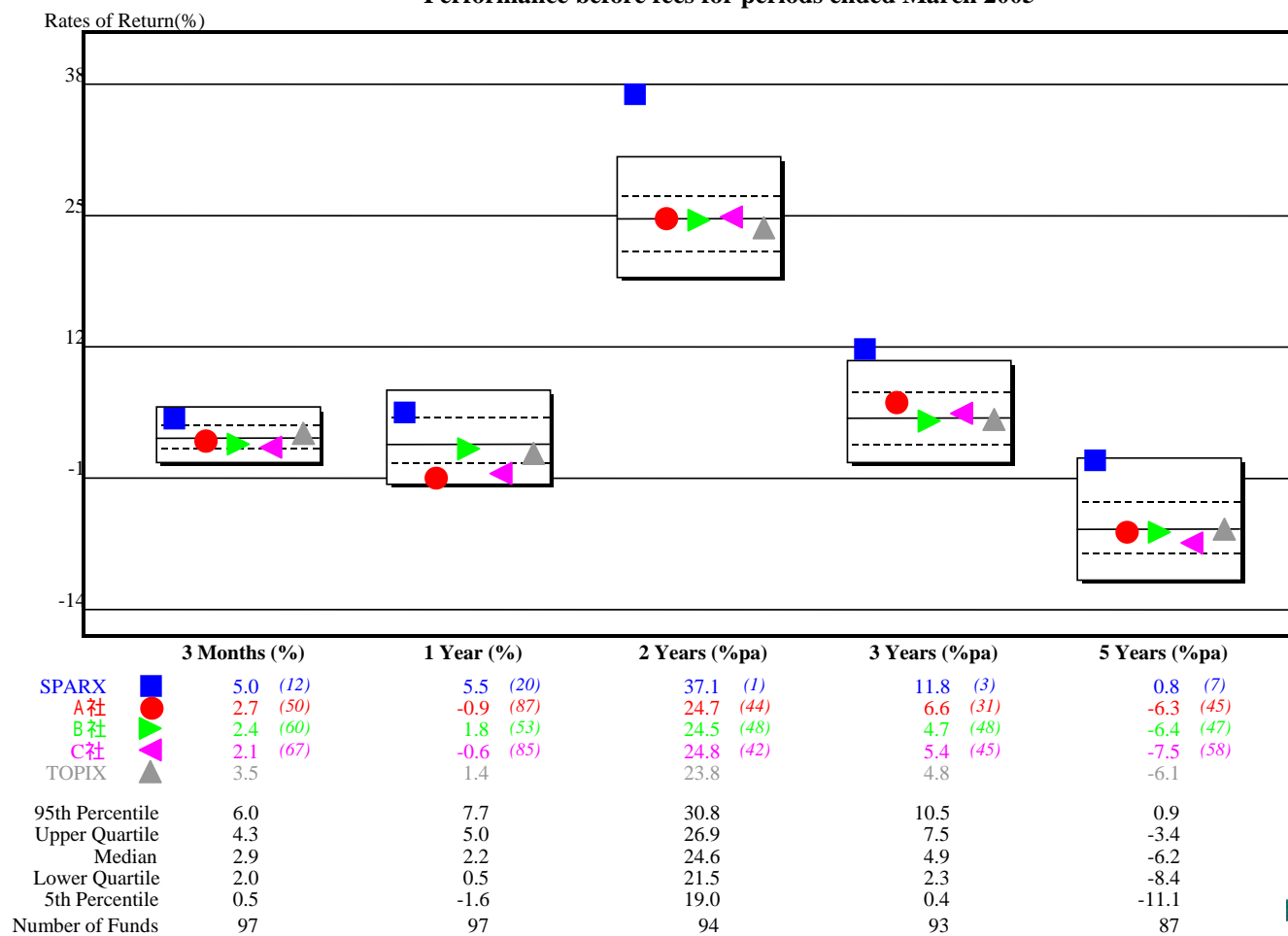
3. リターンに関する追加情報(過去5年の年度別リターン)

	2001年3月期	2002年3月期	2003年3月期	2004年3月期	2005年3月期
日本株式一般(合同口)	-25.25%	-0.22%	-25.58%	78.05%	5.55%
日本株式店頭	-34.98%	-10.21%	-16.85%	69.05%	4.17%
L/S(ドル建、Lev2)	-4.20%	9.68%	-6.41%	37.92%	0.91%
L/S(円建、Lev1)	2.02%(10ヶ月)	7.09%	-7.30%	29.30%	3.58%
集中投資	-11.66%	-9.65%	-10.51%	53.23%	3.12%

- GIPSに準拠したコンポジットは、要請があれば提供することが可能である。

【ご参考】パフォーマンスのピア・グループ比較

Comparison with the Mercer Japanese Equity Universe
Performance before fees for periods ended March 2005



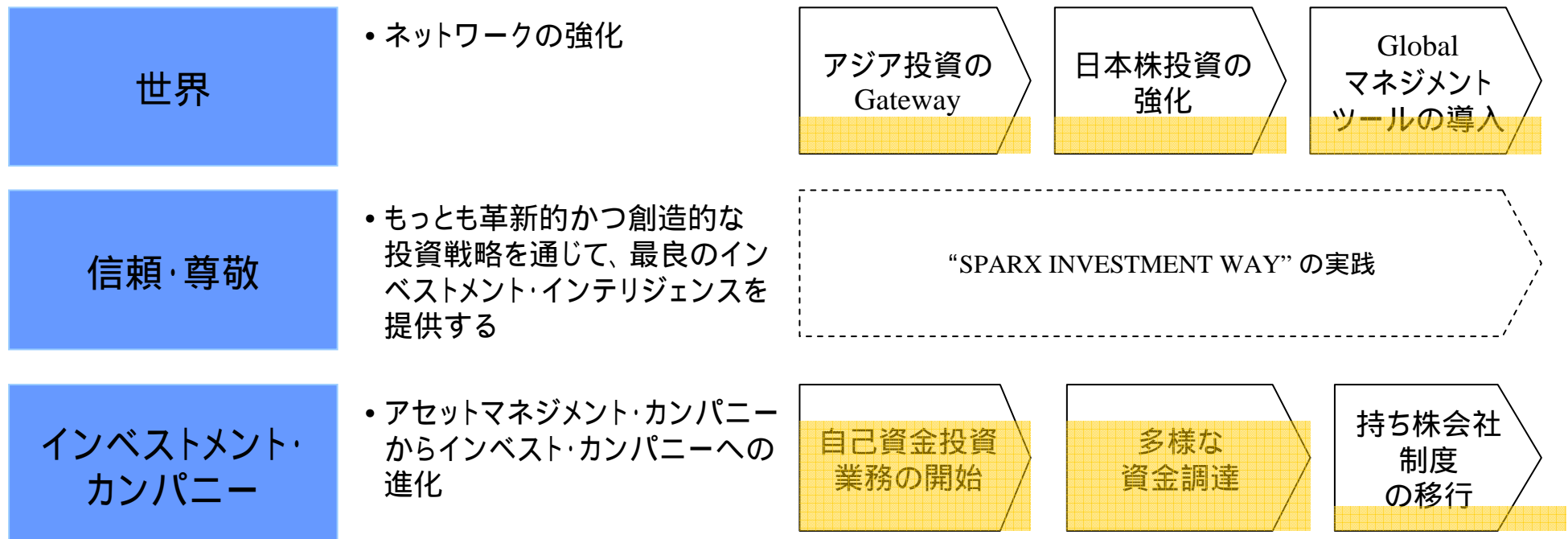
(注) 上記の数字およびグラフは、マーサー・インベストメント・コンサルティング社の調査に基づく。
ファンドに関する数値は、将来の結果を約束するものではない。

当社の成長戦略に関するアップデート



スパークスのビジョン

「世界で最も信頼され尊敬されるインベストメント・カンパニー」を目指して、「世界」・「インベストメント・カンパニー」を軸に打ち手を進めている



(注)



は、進捗度合いを示す

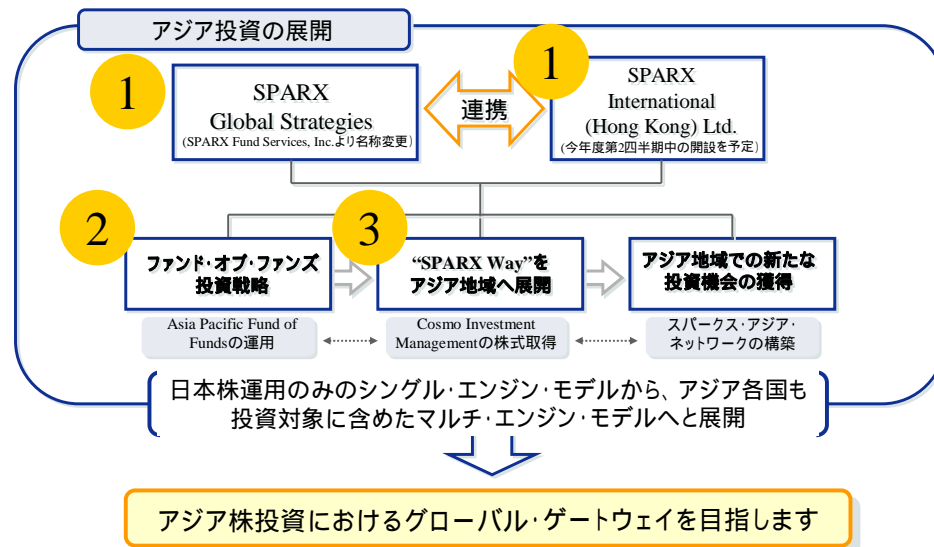
成長戦略について

2005年3月期本決算説明会で発表した当社の成長戦略は、1)顧客利益の最大化を目指したアジア投資戦略と、2)株主価値の最大化を目指した自己資金投資戦略と、で構成される

世界

顧客利益の最大化を目指す

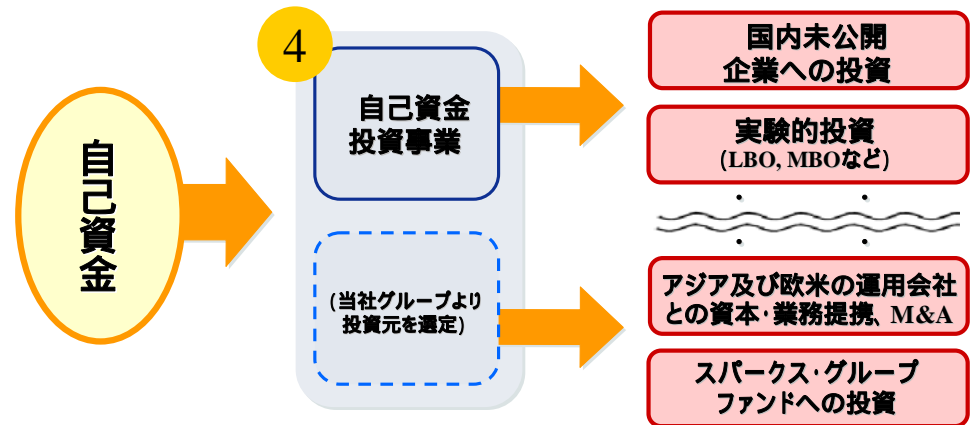
・アジア投資の展開



インベストメント・カンパニー

株主価値の最大化を目指す

・自己資金投資を開始



(出所) 2005年3月決算説明会資料より抜粋

成長戦略に関するアップデート

当社の成長戦略は、当初の計画に従い着実に進捗している

アジア投資の展開

- 1 • アジア株投資のハブ機能を確立
 - SPARX International (Hong Kong) Limited の設立
- 2 • 投資戦略の進展
 - ファンド・オブ・ファンズ投資戦略の運用資産残高増加
 - 将来への布石の実施
- 3 • 成功ノウハウをアジア地域へ伝播
 - Cosmo Investment Management Co., Ltd の運用資産残高の増加
 - 既存販売チャネルを使ってSPARX Korea Long-Short Fundを展開

自己資金投資事業

- 4 • 事業体制整備が完了
 - スパークス・キャピタル・パートナーズ(株)の開業
- 資金調達手段を拡充
 - (株)格付投資情報センターより発行体格付「A - 」を取得





本資料は、参考資料としてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が作成したものであり、証券取引法上の開示資料ではありません。また、本資料は、投資情報の提供を目的としたものであり、特定の商品、あるいは、有価証券の勧誘を目的にしたものではありません。投資判断は、各人の個別の情報と判断と責任によってなされるものであり、投資結果についてスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社が責任を負う事はありません。情報については、正確を期していますが、正確性に責任を負うものではありません。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点でのものであり、今後、予告なしに変更されることがあります。また、過去の実績に関する数値は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料は、目的によらず、スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の許可なしに複製・複写をする事を禁じます。